

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 742 号] 2024 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.742

April 2024

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

東京バッハ合唱団 特別演奏会 2024

## 「バッハと仲間の音楽会」へのお誘い

都内の 2 つの教会をお借りして、表題のコンサートをお届けします（入場無料）。

- ① 6 月 8 日（土）、荻窪教会、14 時開演
- ② 6 月 15 日（土）、三崎町教会、14 時開演

プログラムの 1 曲目《キラキラ星変奏曲》では、おなじみのフランス民謡を主題に、つぎからつぎと繰り返す変奏によってキリストの足跡をたどります。バッハの技法にも迫ろうとする大作！の初演。作者はわれわれ東京バッハ合唱団のベテラン団員、“仲間”松尾茂春氏です（独唱/合唱各 4 声部+管弦楽+オルガン）。

今回は、思いっきり若手の声楽家に協演をお願いしました。将来の「バッハ日本語演奏」を担っていただきたいという願いからです。バッハ専門合唱団の草分けでもある当合唱団は、母語で歌い聴くことによってバッハの音楽と精神により親しく接し、深い感動に至ることができるという主宰者の信念に導かれて、創立以来 60 余年、日本語訳詞での演奏をつづけています。彼ら、若い音楽仲間が、われわれのこの理念を体現してご活躍くださることを、ともに期待しましょう。

管弦楽団 ARS（コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン）の皆さんとの協演は、コロナ禍をともに乗り越えながら、もう 5 年目に入ります。ご存じのとおり“愛好家”の集まりであり、われわれ合唱団の組織の在り方と軌を一にしています。合唱団とオーケストラ、真の意味での理想的な“コレギウム（仲間）”の

形成を、お聴きの皆さんにも感じていただけないはず。今回のプログラムでは、弦・管各 7 名にティンパニを加えてのご出演。

何よりも、この月報をお読みくださるバッハファンのお一人お一人、たいせつなお仲間です。みなさまの“お仲間”にもお声がけいただきご来場ください。

< 曲目 >

- キラキラ星変奏曲 Version 2.0 “初演”  
作詞作曲：松尾茂春（東京バッハ合唱団員）
- ヴァイオリン、フルート、オーボエのための協奏曲 BWV 1064
- カンタータ第 6 番《とどまれ我らと 夕闇せまり》BWV 6  
バッハ・カンタータ日本語演奏：大村恵美子訳詞

< 演奏 >

独唱：藤原優花（ソプラノ）、中島麻紀子（アルト）  
野中裕太（テノール）、及川泰生（バス）  
管弦楽：ARS（コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン）、オルガン：田尻明葉、合唱：東京バッハ合唱団、指揮：大村恵美子/松尾茂春（キラキラ星変奏曲）

終曲のカンタータ《とどまれ我らと 夕闇せまり》は、バッハを代表する名曲中の名曲。エマオ途上にある傷心の弟子に語り掛けているのは、なんと、復活のキリストだったのです！前々号月報 No. 739（1 月号）でご紹介しました。「バッハと仲間の音楽会」、お楽しみいただければ幸いです（詳細チラシあり）。

### —入場無料—

（①②ともプログラムは共通）

- ① 日本キリスト教団 荻窪教会（JR 中央線/東京メトロ丸の内線「荻窪駅」南口から約 8 分）
- ② 日本キリスト教団 三崎町教会（JR 総武線「水道橋駅」東口から、右方向へ約 3 分）

◆お申込み：会場準備の都合上、メールまたは電話にて下記へのご予約をお願いします。以下は必須項目です：1) 会場名（番号）、2) お名前、3) 人数、4) 住所、5) ご連絡先（メール/電話など）

- ・メール office@bachchor-tokyo.jp
- ・電話 03-3290-5731
- ・HP の窓口からも <http://bachchor-tokyo.jp/>

### ◆後援会員の皆さまへ

優先して予約をお受けします。とくに荻窪会場（①）は席に限りがありますので、お早めにお申込みください。

### 月報 2024 年 4 月号 CONTENTS

- ・祝賀コンサート / 「私の宝石箱」(大村恵美子) …p. 2
- ・資金づくりにご協力ください (楽譜/三十年誌) …p. 3
- ・連載：退屈するのはいそがしい [27] (大野博人) p. 4





## 雑感 わたしの宝石箱

大村 恵美子 (主宰者)

いつもあれこれと特に着飾らない私も、実は人並みに宝石箱を持っている。

これだけ長い年月を生きて来た私は、「東京バッハ合唱団」の活動のため、いつも経営赤字の生活を続けていた。それを見ていらした、辻莊一氏、服部幸三氏、向井潤吉氏など、数人の偉い先生方がお集まりになって、特に「後援会」を設けてくださり、そのおかげで、何とか世の中に喜ばれそうな仕事が、絶えることなく生まれて来た。

また、私には、兄・姉・妹が1人ずついて、4人で育てられて来た。他の3人とも皆おカタい職業について、私のお金の苦労話を聞くと、貸金やら献金やら、そのつど暖い反応で答えてくれた。両親ともアメリカ生まれだったので、私達が将来外国でも通用出来るようにと、

1. ジョージ (祥司、中央線「吉祥寺」産まれ)
2. ケイ (恭子)
3. エミー (恵美子)
4. ジュン (淳子)

と名付けて、可愛がって育ててくれた。今はもう私と姉だけになってしまったが、その姉も熊本の老人施設で梨のつぶて……。

さて、私には、何かの折に「指輪」をプレゼントして下さる方々があって、今でも箱から取り出しては、それぞれの美しさに、しばし見とれている。最近気づいたのだが、どんなに素晴らしい物でも、こうやって家で愛でていても、その品々はなんら報われないままだ。それで、思いついて、左指には「真珠」の、右指には私の誕生月の「アクアマリン」(青い星型カット)の指輪をはめてみた。痩せたらしくて、すぐずり落ちるのを健二(夫)が何かうまく詰めものを加えて、丁度よく留まるようにしてくれた。私の内心では、真珠は母(鈴木花代)を、アクアマリンは夫(健二)を表している。それぞれから誕生プレゼントされたもの。人間も同様だが、物品も大切だと思ってしまうこんで

## 主宰者 93 歳、祝賀の Birthday Concert

3月、主宰者・大村恵美子の誕生月です。

春を迎える佳い季節ですので、前後の土曜日が休日を利用して、遠出したり、ゲストをお招きしてスピーチをお聴きしたり、毎年趣向をこらして、お祝い会を催しています。昨年は、世田谷美術館の離れのレストランでの食事会でした。

今年は、当日(3月9日)が土曜の練習日に重なりました。難しい課題曲を多く抱えて、練習日をつぶすわけにもゆかず、団員の方々のお計らいで、練習の後半に小さなコンサートのプレゼントとなりました。

ヴァイオリンとオルガンのデュエットで、「シバの女王の入場」(Händel)、「羊は安らかに草を食み」(Bach)、「ヴァイオリン・ソナタ HMV. 373」(Händel)、「カンテイレネ」(Rheinberger)の4曲。

アルト団員・風岡さんの姪御さんの土屋昌子さんのヴァイオリン、おなじみ、当団オルガニストの田尻明葉さんの伴奏。

その後、京樽のお弁当とケーキなどをいただきながら、団員のみなさんお一人お一人からの心のこもったメッセージを頂戴しました。

主宰者からは、「毎週毎週、みなさんとお会いして、ごいっしょにバッハの音楽を学んで来られたのが、長生きの秘訣。これからも、命のかぎり、バッハに学んでいきましょう」との力強いご挨拶がありました。



- 早咲きの桜 (左上 2024/03/11, 右ページ下 2024/02/17)
- 挨拶する大村先生(左)、演奏の土屋さんと田尻さん(下)、いずれも荻窪教会にて 2024/03/09. 撮影: 千葉光雄氏・団員



◆月報バックナンバーは、当団HPからご覧いただけます。  
[http://bachchor-tokyo.jp/monthly\\_newsletter/index.htm](http://bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/index.htm)

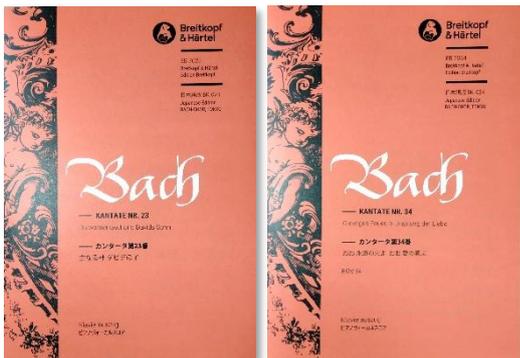
おくと、無いも同じで、指にはめれば、やはり見るたびに美しく、関連して色々なことが思い出される。私は今更ながら、戴きものは、ちゃんと用途通りに活用してこそ、価値が発揮されるものと悟った。

これは「指輪」だけでなく、何にでも当てはまる。物ではなく、「人間」でも、あの方は立派すぎて、とか、ご長寿すぎて、とかで、敬遠してタテマツっていると、その尊敬申しあげている方当人の幸せにはならない。愛する相手には、その方の良さも発揮できるような場面を、さしあげることこそ、お互いに嬉しいしいのではないか。

私は今、両手の指輪を見つめながら、ひとしきりそんな思いに充たされている。宝石箱の中に納められたままの、他の美しいもの、といっても殆ど指輪・ブローチばかりだが、折角美しく造られたものばかりなのに、誰にも見てもらえないで置かれているのは、可哀そう——。あれこれと見せびらかすのはまずくても、指輪の存在にはやはり、存在として役割を果たさなければもったいない。昔はひところ、新しく頂いた指輪など、何とかして役割を理解しなければと、あせって使用したものだが、やはりこの世は、生きるに必要なものだけで他のものは不要、というように割り切るヤボな、殺風景なものでもないでしょう。

私は近頃、むしろ何でも、存在するものは、大いに役立ってもらいたい、という前向きの気持ちになっている。[ア]

### ◆資金づくりにご協力ください



大村恵美子訳詞『日本語版バッハ・カンタータ楽譜全集』

<最新刊2点> (次回定期公演曲目)

- ・BWV 23 《主なる神 ダビデの子》
- ・BWV 34 《おお永遠の日よ おお愛の源よ》

2024年3月刊、東京バッハ合唱団出版局  
A4判、いずれも本文36ページ、各2100円

前号月報でご案内したとおり、日本語版全集の第83、84回配本は、底本・創業300年の老舗ブライトコプフ社版のものと表紙意匠を揃えた記念すべき、最初の2点となりました。

◆2曲まとめてお求めいただくと、4200円のところ、ナント！、送料(380円)込みで5000円でお届けします。400円ほどは“ご寄付”。事務局までご注文ください。

◆上演用歌詞対訳は、当団HPからご覧いただけます。  
[http://bachchor-tokyo.jp/japanese\\_words/index.htm](http://bachchor-tokyo.jp/japanese_words/index.htm)



◆資金づくりにご協力ください

大村恵美子著

『東京バッハ合唱団  
三十年の歴史』

1992年9月20日刊

国際文化出版社

四六判

350ページ

3000円

<目次>

#### ・第1部 草創(1962-1971)

反権威主義;ヨーロッパ留学;合唱団発足;最初のクリスマス;美術家会館と後援会;年間計画;小林道夫さん;バッハ・ゼミナール;磯谷威先生;野尻湖合宿;練習場を目白に;教会から演奏会場へ;演奏旅行;「ヨハネ受難曲」;練習所増築;「クリスマス・オラトリオ」

#### ・第2部 試練(1972-1981)

芽ばえ;歩み始めた合唱団;創立10周年に向かって;合唱団の危機;合唱団の飛躍;ドイツ公演に向かって

#### ・第3部 展開(1982-1991)

創立20周年記念の年(1982);第1回ヨーロッパ演奏旅行;ヴァイマル・ケーテン時代のバッハと共に;バッハ生誕300周年記念の年;2大イベントを準備;創立25周年記念の年;第2回ドイツ演奏旅行の年;世界激変の年;冷戦後の世界緊張つづく;「40歳のバッハ」を歌う

創立30年の時点での、主宰者本人による総括です。20世紀後半、本格的なバッハ受容の最先端にあって、がむしやらに突き進んだ、著者30歳から60歳までの全記録。

ここには、その後の30年をも超えて躍動をつづける音楽集団のエッセンスが蓄えられているはずです。

最初の10年が「第1部 草創」であったならば、この著書の範囲を超えた第4部(1990年代)、第5部(2000年代)、第6部(2010年代)は、それぞれ何と括るべきでだったのでしょうか?そして、今、わたしたちは「バッハを日本語で歌う」第7部の発端にいます。

◆古本屋で1000円のところ、ナント!、定価の3000円でお届けします(送料含む)。もちろん新本です。差額は“ご寄付”という寸法です。ご協力いただければ幸いです。残部僅少。事務局までご注文ください。



<連載随想>

退屈するのはいそがしい [38]

## ちょっとキザだったあの人



安曇野閑人 大野 博人

先日、東京・四谷の聖イグナチオ教会であった追悼ミサに参列した。1970年代にNHKでキャスターだった磯村尚徳さんを偲ぶミサ。亡くなったのは昨年12月6日。享年94。フランス大使をはじめ、日仏関係者や記者仲間など多くが集まった。ミサはオルガンが奏でるフォーレのレクイエムで始まった。

むずかしい問題もソフトな語り口で解説するニュース・キャスターの草分けとして知られる。著書のタイトルのように「ちょっとキザ」な感じもあったけれど、視聴者からは愛された。私たち記者にとっては、国際報道の大先輩として仰ぎ見る存在だった。

特派員として活躍していたのは、私よりずっと前で1950年代から80年代にかけて。フランス語も英語も堪能で、次々と各国要人との独占インタビューをものにし、複雑な国際情勢をわかりやすい言葉で発進し続けた。彼と活動時期が重なっていないのは幸運だった。ライバルだったら、とてもかないそうにない。

私がパリに赴任していた90年代から2000年代にかけては、パリ日本文化会館の館長だった。その縁でしばしばお目にかかった。社の後輩ではない私の記事へもよくコメントいただき、激励されることが多かった。帰国後も日仏交流に熱心に取り組み、東京勤務になった私もよくシンポジウムなどに誘われた。

彼と話していて、もっとも印象に残ったのは、日本の対外姿勢へのきびしい視点だ。外交、経済から文化にいたるまで米国に傾斜しすぎていることへの批判。ワシントンでも活躍し、英語も駆使する人だったけれど、フランスをはじめ欧州をもっと重視するべきだといつも話していた。

とりわけ、米国のブッシュ政権が対イラク戦争に乗り出したときがそうだった。2001年9月11日の同時多発テロを口実にしていた。当時、フランスはドイツ、ロシアなどとともに米国に反対した。フランスのシラク政権は、当時のイラクのサダム・フセイン大統領を独裁者とみていたが、9.11はイラクとは関係なく、戦争を仕掛ける大義はないという立場を貫いた。結局、戦争でイラクのフセイン政権は倒れたが、米国が言いづらかった「イラクが隠し持っている大量破壊兵器」なるものは見つからなかった。だが、戦争のせいでイラクの秩序は崩壊し、自暴自棄となった過激な集団が跋扈することに。その後、何年にもわたって罪もないたくさんの方々が混乱の巻き添えで命を落とした。大義のない戦争を仕掛けるという点で、米国はロシアの先例だった。



■磯村氏の訃報を伝えるNHKニュース（写真提供・筆者）

だが、日本は米国の対イラク侵攻を支持、自衛隊も派遣した。大義がないどころか、世界をよくするより、悪くしただけの米国の政策に加担してしまった。

だから、と磯村さんは繰り返し語っていた。進むべき方向を決めるのに、自分で考えずに米国に委ねるようなことをするべきではないと。

フランスは米国から「enfant terrible」（手におえない子ども）と呼ばれてきた。東西冷戦時代に米国と同じ西側陣営の主要国であったものの、しばしば米国の方針には同調しなかったからだ。そんなフランスが、彼にはお手本に見えたようだった。

なんでもフランスや欧州がよくて、米国はよくない、というのではない。国際問題を考えるときに、ひとつの視点だけにしがみつくことを問題にしていた。米国を、抗うことのできない「宿命」と見て盲従し、思考を放棄する態度。それをあらためなければ、と磯村さんは願っていたようだ。自分の未来は、自分で考えて切り拓くしかない。

だが、その願いもむなしく、日本の政治は相変わらず。それどころか磯村さんがお手本にしたかったフランスもマクロン政権の迷走が続いている。

磯村さん、この混沌とした情勢をどう読み解けばいいのでしょうか。問いかけても、遺影はにこやかに微笑んでいるだけだった。

（団友・後援会員、元朝日新聞記者）

### 【編集後記】

本日、この時点で、あなたにとっての最も重要な課題は？

3月22日、モスクワのコンサートホールに、タジキスタン出身とされる男4人が銃や爆発物をもって乱入。わずか18分で130人を超える観客を殺害したと伝えられている。イスラム過激派集団ISと繋がるようだ。

2年前の2月、ロシア軍が「特別軍事行動」と称してウクライナ領内に侵入。その後、各地の住宅やインフラ、非軍事施設にミサイル等での攻撃を繰り返している。両軍の死者は今年50万人を超えたとされる。子どもをふくむ民間の被害者は……。

1年前の10月、パレスティナ・ガザ地区のイスラム組織ハマスが、イスラエルの隔壁を抜けて急襲。その後の圧倒的な物量によるイスラエル側からの報復攻撃は、反吐が出るほど、気分が悪い。

こういった荒っぽい行為に及ばねばならないほど追い詰められた、各当事者にとっては、そこに、果たさねばならない課題があったわけか。では、われわれにとっては？